



シカゴ日本人学校 教育目標 愉しく ・ 仲よく ・ 元気よく



シカゴ日本人学校へお越しいただき、ありがとうございます

シカゴ双葉会日本語学校全日校

(シカゴ日本人学校) 校長 長谷川 雄一

シカゴ日本人学校のホームページにようこそお越しくださいました。

本校は現在、幼稚園30名、小学部80名、中学部26名の合計136名の園児、児童生徒がシカゴの青く広がる大空のもと、元気いっぱいに学んでいます。

「シカゴにやってきたんだ！」

シカゴは日本の羽田・成田空港から約14時間、アメリカの中西部イリノイ州にあります。東側には広大な海のようなミシガン湖があります。エメラルドグリーンからコバルトブルーへと美しいグラデーションで彩られた穏やかな湖面が広がります。日本から来る飛行機はこのミシガン湖上空で大きく旋回し、オヘア空港へと着陸態勢に入ります。左側の座席からは、眼下にシカゴのダウンタウンの湖岸に建ちならぶ高層建築を見ることができ、「シカゴにやってきたんだ！」という感動が沸き起こります。

「動物園みたいなところ」

学校は、シカゴの中心部ダウンタウンから少し離れたところにあります。8本の滑走路を持つシカゴ オヘア空港、全米最大の規模を誇るシャンバーグのショッピングセンターがすぐ近くにありますが、学校の周辺には池や沼、木々も多く、あちこちにリスやウサギ、スカンクやアライグマなどが日常の光景に見られます。時々鹿やコヨーテなどもみられるそうです。小学生からは「動物園みたいなところ」だそうです。学校はこうした自然環境豊かなアーリントンハイツ地区にあり、治安も比較的よく、教育環境には最適な場所にあります。小学部の社会科見学ではアーリントンハイツの浄水場や図書館にも行きますが、ミシガン湖から引かれた良質の水の提供や、30万冊を越える蔵書だけでなく様々な語学や文化・芸術面でのアメリカ人と外国人の区別のない住民へのサービスの提供があります。アメリカのよさを満喫できる地域です。

「様々なお客様」

シカゴ日本人学校には様々なお客様をお迎えし、園児や児童生徒に一流の方々の演奏を聞いたり、お話をお聞きしたりする特別な機会があります。今年度当初には世界的バイオリニストの田島奈央子さんの演奏会や世界選手権で優勝経験のある太鼓演奏者、過去には

宇宙飛行士の若田光一さん，野球のシカゴカブスやホワイトソックスの選手たち，フィギュアスケート，柔道等のスポーツ選手からもお話をお聞きする機会がありました。感動と勇気，夢や希望を与えてくれました。これも日本人学校ならではの魅力といえます。

「特色ある行事」

シカゴならではの行事としては，小学部の修学旅行（ワシントン DC），中学部の修学旅行（ボストン），グリーン上に出たのゴルフ教室，ネイティブスピーカーによる水泳教室・スケート教室，一泊二日のスキー教室，シカゴシンフォニーを聴く校外学習，英語による演劇鑑賞会，各学年や中学部での現地校との交流学习，ダウンタウンに広がる高層建築を見ながら，シカゴ動物園やシカゴ博物館等への小学部の遠足，中学部はシカゴ日本国総領事館，ノースウエスタン大学を訪問し，シカゴ総領事さんや世界トップレベルの研究者からお話を聞きました。地域の日本人社会の皆さんが楽しみにされている春に行われる大運動会，秋に行われる学習発表会として双葉フェスティバル，アメリカの歴史や文化に触れるハロウィンやクリスマスの行事等，アメリカの現地校にはない日本人学校ならではの学校行事が日本語を大切にしながら，ネイティブスピーカーによる英語でも教育活動が行われています。

「特徴ある校舎」

学校は70年代に建設された古い建物ですが，地元の教育委員会からお借りしており，毎日のようにメンテナンスも施されています。形は当時の流行りでしょうか，宇宙基地のようなポッド型をしています。外壁はレンガ造りで校庭の緑の芝生とシカゴの見渡す限りの広い青空がマッチします。この校舎内に幼稚園と小・中学部と補習授業校が入ります。

これは世界の日本人学校の中でも珍しい3つの学校が同居している形です。幼稚園児と小学生・中学生は日常的に生活と学びを共にしています。互いの行事や教育活動での交流もあります。補習授業校の児童生徒は月曜日から金曜日までは現地の学校に通い，毎週土曜日のみ登校します。現地校は夏休みが長く2～3か月近くに及ぶので，毎年サマースクールとして数週間全日校で共に授業を受け，行事に参加する機会もあり，交流の場が用意されています。

「特色ある教育活動」

校内は各学年1学級で日本国内に比べて少人数での指導が行われています。日本からの文部科学省在外教育施設派遣教員が担任をし、日本の学習指導要領に基づき授業が行われています。学習内容は体系的であり広い知識と思考力、判断力、表現力等を培い、生きる力の育成を図る教育活動に取り組んでいます。昨年から5年計画で海外子女教育財団からの指導を受けながら探究学習からプレゼンテーション能力の育成を研究テーマに実践的な研究を進めています。

「日本語で日本の教育を、アメリカに住むよさも活かしながら」

最大の特色は、日常的に日本語で日本の教育を行うことを第一にかかげながら、アメリカ シカゴに住む特性を最大限に活かし、英会話能力の向上やアメリカの歴史や文化を学ぶ機会を積極的に設けています。アメリカ人のネイティブスピーカーたちは、英会話の力をつけるだけでなく、日頃から創造的でコミュニケーション能力豊かな授業を行い、日本から来たばかりの児童生徒もたちまちのうちに英会話に慣れ、上達しています。小学1年生では、英語の歌やゲームなどから、英語が自然に口からでるような工夫もされ、英語の授業はどのクラスもいつも笑顔が溢れています。先日は中学部の生徒とシカゴ在住の小説家5名が、クロムブックの映像機能を使用して創作活動についての意見交換をすべて英会話で行いました。中学生からも多くの質問が出され、活発な授業となりました。初めて見た方には、現地校の高校生かと思えるような内容で、これが日本人学校中学部で行われている授業とは思えない光景でした。

「アメリカの現地校や地域との交流」

秋になると各学年は現地の小学校や中学校との交流が活発化します。双方向の交流を行います。こちらから現地校に行き、共に学び合い、ランチを共に過ごしました。次回は現地校を受け入れ、逆に日本ならではのおもてなしの心で迎え入れます。この時もほぼ1日生活を共に過ごします。現地校の生徒の中には様々な国から来た生徒も多く、先日伺った中学校では、一クラスにモンゴル、ドイツ、アイルランド、韓国、中国、ウクライナ、フィリピン、オランダ、イギリス等からアメリカに来たという生徒たちもいました。当然、

服装も髪型もアクセサリ等も様々です。英語と日本語、そして異文化理解・国際理解を実践的に学んでいます。

学校の前にはセントエドナ教会があります。ここは本校の緊急時の避難場所としても受入れていただいています。先日はここで地域の方々を対象に児童が歌を披露しました。大きな拍手をいただいた後は、地元の方々との交流です。英語でお話をしながら、落ち葉で作成した手作りのしおりをプレゼントしました。多くのアメリカの人々に喜んでいただき、貴重な交流の場となりました。「あなたはすばらしい子どもたちに愛されていますね」とのお褒めの言葉をいただきました。

「目指すは世界一のシカゴ日本人学校です」

シカゴ日本人学校では、このように世界を見すえながら、日本の教育のよさとアメリカで学ぶよさをかけ算にして、最大限の教育効果を引き出す努力をしています。目指すは、世界一のシカゴ日本人学校です。創立当初の人々の思い、その都度難局を乗り越えてこられた諸先輩の思いを受け継ぎ、みなさんが目指していた「世界一のシカゴ日本人学校」の実現に向けて取り組んでいます。

本校の歴史

本校は昭和52年、全校児童生徒103人・教職員13名で開校しました。

正式名称は「シカゴ双葉会日本語学校 全日校」です。1978年9月1日に、シカゴ郊外にあるスコークーの地に開校しました。今年度小学部は第46回、中学部は第44回目の入学式を迎えました。経営母体は、JCCCシカゴ日本商工会議所です。その中の学校部門である「シカゴ双葉会」が、学校運営委員会として管理運営を担っています。

本校の精神（スピリッツ）をご紹介します。これは、東京学芸大学海外子女教育センターが発行した、在外教育施設における指導実践記録集（第4集）に残る文章です。

「シカゴ日本人学校の設立開校」初代校長 長澤 常夫 先生

「シカゴ日本人学校設立の動機ともなり、推進力ともなったのは、駐在日本人家庭の熱意であり、それを力としてまとめたシカゴ日本人商工会議所（シカゴ双葉会）の人々の努力である。特に設立準備委員会 シカゴ双葉会の人々は本来の各企業の駐在使命にもまして意欲と実行力を示されたように見受けられる。これは教育に携わる私は、非常な感銘を受け、以後の使命感に影響を受けた。」（原文のまま）

設立準備委員会が発足してから、わずか7か月の短い準備期間にもかかわらず、派遣教員4名とシカゴ在住の多くの日本人とアメリカ人のご尽力により開校しました。

本校の校章

学校だよりの題名にもなり、表紙を飾る緑色の双葉のマークが校章です。

1967年に在シカゴのグラフィックデザイナー 関口 余士さんにより、デザインされ、本校に寄贈されたものです。

双葉のマークをよく見てください。何か気がつきませんか、そうです。左側の葉がC、茎と右側の葉がFの文字になっています。

つまり、CHICAGO FUTABAKAI の頭文字CとFを使い、双葉が形づけられているようにデザインがなされています。これは、ニューヨーク・タイプ・ディレクター主催のデザインコンテストの入選作品でもあります。

本校の校歌

校歌は1989年（平成元年）3月3日（金）に校歌発表会が開催されました。

開校10周年の節目の年に制定されました。

作詞者は、菊竹 暁美 さんです。オリジナルの曲は現在歌われているものよりも長く、言葉も難しかったようです。それを幼稚園児から高校生まで（幼稚園と補習校が併設されているため）歌えるようにとのことで、言葉を短くし、やさしい言葉を加えながら作られたものだそうです。その作業は実にたいへんであったようで、しばらくの間、いろいろ

ろな言葉が頭の中を駆け回っていたそうです。ミシガン湖から広がる大平原の自然を背景に、たくましく、のびのびと育ち、さらに飛躍してゆく子どもたちの姿を文字に記したとのことでした。

作曲者は、池辺 晋一郎 さんです。代表作として、交響曲や合唱曲、ピアノ協奏曲、オペラ作品など幅広く手掛けられた方で、映画音楽「影武者」「楢山節考」「瀬戸内少年野球団」、NHK大河ドラマ市川染五郎主演 夏目雅子等出演の「黄金の日々」、朝ドラ沢口靖子主演「濡つくし」などにも関わり、日本アカデミー賞優秀音楽賞3回、毎日音楽コンクール音楽賞2回など数々の受賞歴に輝く作曲家です。

当時の校歌発表会には、お二人が参加していただいた記録も残されています。当時の児童の挨拶には、「この校歌にあるアメリカのように、大きく元気な子になるんだ、そんな気持ちを歌っていきたい」と記されています。

ここまでご覧いただき、ありがとうございました。シカゴ日本人学校の日常の様子は常時、発信していきます。お楽しみに。そして機会があれば、どうぞ本校にお越しください。お会いできる時を楽しみにしております。

シカゴ双葉会日本語学校全日校

シカゴ日本人学校 校長 長谷川 雄一